【稲城市議会議員 鈴木 誠 活動報告】

今号は通常２号分のボリュームを凝縮掲載しているため、虫眼鏡が必要なくらいに字が細かい箇所が一部ございます。どうかご容赦いただきますようお願い申し上げます。

稲成起風（いなりきふう）

VOL.7+8
【冬春合併号】
2013年（平成25年）4月5日
発行：稲成会（鈴木誠後援会）事務所
稲城市平尾2-77-1 ℡.090-2453-8382
http://inagi.info

平成25年度予算、多数の新条例が可決

平成25年度予算564億円 審議条例29件の正念場 議員定数調査特別委も…

稲城市複合施設ふれんど平尾条例・稲城市郷土資料室条例等、関連条例も可決され新スタートに向けた準備が整いました。（写真は工事中の複合施設建設現場）

平成25年度の稲城市予算の内、市立病院や土地区画整理、保険事業等の特別会計を除いた一般会計は308億900万円。人口は伸びているが市民税（法人・個人）が減収、市たばこ税が微増、歳出を削減しても尚足りずに基金を取り崩す状況…。

しかし、第四次稲城市長期総合計画に沿って防災や子育て支援等の重要な領域には十分な配慮がされ、財政指標を基準に将来世代にも負担を求めることが出来る基盤整備等に限って起債している「健全な財政運営」と判断できるため、次の①市債発行は金利、国や都の状況を注視すること②指定管理やPFI等の委託は費用対効果やサービスレベルをチェックすること③市民ボランティアに対する考え方に全事業で一貫性を持たせるよう見直しを行うことの3点を条件とした上で予算案に会派で賛成、多数で可決。

条例では国の法律を受けての改正が多かった中、目玉は3つ。「**企業誘致条例**」では一定の面積・従業員を有する企業が稲城市で新たに事業所を置く場合に本来賦課される固定資産税等の税額の90%最大1億円を奨励金として交付するもの、市民の新規起業も加える旨を確認した上で賛成。「**市立公園駐車場の管理に関する条例**」では総合体育館をはじめとした9箇所の公園等を有料駐車とするもの、長峰の渋滞解消対策を付加した上で賛成。「**生活文化施設条例**」は複合施設ふれんど平尾の再開に伴い、同施設に入る資料室や教育センター等の条例を併せて審議。

議員定数についての議論は多様な意見があり全委員12人で熱論を展開中。《陳情判断他、HPをご覧ください》

議員定数調査特別委員会では都下26市の定数・人口比・予算比、過去の稲城市での削減経緯が説明されました。

多摩川衛生組合関連の話

以前お伝えした清掃工場建設談合事件の和解金額25億900万円の使い道を検討した結果、実損害金分18億125万円を構成4市（稲城・狛江・府中・国立）に分配し、遅延損害金分7億775万円を今後の清掃工場建替え等に向け貯金することに。5月の多摩川衛生組合議会議員改選後に正式な基金名を検討するため、現時点では財政調整基金の名目。稲城市に対しては2億709万円の清算金が入った。議会では一部から「予期せぬ収入であるから何かに使おう」との意見も出たが、右項目で記載の平成25年予算で赤字分（市財政調整基金繰入金）7億992万円があったため、その赤字分に充当すると市議会で決定づけた。

年末で終了した宮城県女川町災害廃棄物受入れは、予定の日量10t3ヶ月間合計900tの見通しが、最終的に合計625tに減。住民向けの随時広報を要望、HP改修を勝ち取る。

女川町からの災害廃棄物コンテナを搬入する様子

農住一体型や新型エコハウスを見学

家屋を囲む排水を浄化する水路

立川市のエコファーマー倶楽部「スマイル農園」を見学。昨年訪問した練馬区の「みやもとファーム」と同じく農家から畑を借りる形。収穫した物をその場で調理して食べられる御洒落な家屋も完備し、会合など多様な使い方が出来る。

小金井市の環境楽習館では生活排水を庭の水路で浄化する画期的手法を提示。下流にはメダカも生息。

障壁は多いが今後の住宅開発に参考すべき好事例だ。

東日本大震災から2年、阪神淡路大震災から18年…
心の傷を癒すと同時に、震災を風化させないことが重要

神戸市役所隣りの東遊園地で行なわれた慰霊祭で献花して参りました。

名取市の閖上小学校の体育館には、津波で流されボランティアの手で整理された無数のランドセル達が無言で佇む。消防団員のヘルメットも…

私が防災に興味を持つきっかけになった阪神淡路大震災（当時小学6年生）から早18年が経過、神戸近隣の街並みはほとんど震災当時の面影も無く、街ゆく人も笑顔で溢れていました。しかし1月17日の慰霊祭に訪れると、当時を偲び目を赤くさせる方を大勢見かけました。

東日本大震災の三回忌前日3月10日には復興フォーラムに参加し、3度目となる被災地入り。ガレキこそ多くが撤去されたものの、復興はおろか復旧へも前途多難であることを実感。

これまでに訪れた石巻・女川・釜石・大槌・山田等の三陸海岸と違い、今回訪れた仙台空港近辺では高台が近くに無く避難が困難であり、唯一の高台であった高速自動車道も日本人らしい規律正しさ故に、ゲートを破壊せず、多くの被害を出してしまったと現地の方から伺った。

当時この場に居なかった者がこう言うのも不遜ですが、心の傷は癒さねばならない、同時に「癒す＝忘却」になるのではなく、教訓をしっかりと次世代へ繋ぎ、新たな街づくりに生かしていくべきです。稲城市では津波こそ無いものの阪神淡路同様、建物倒壊や火災に対して常日頃より減災の備えをする必要があります。

本予算でも耐震診断・補修助成、家具転倒防止器具配布事業を推進しております、是非とも有効活用を！

現地の声を聞き歩く

当初の予定より遅れて始まった平尾郵便集配所跡地の歩道造成工事。完成は間近。

公園ベンチ修繕、バス停移動、狭隘道路の自動車スピード抑制、何らかの公共工事により迷惑を被っている等々、日頃皆様より多くのご意見を頂戴します。

稲城市は残念ながら資金潤沢と言える状況ではありませんが、市民の安全を守り、利便性を向上するために必要だと判断した場合はきちんと対応するはずです。もし、行政が対応してくれない事等がありましたら、遠慮なく御連絡下さい。（連絡は本紙右上の携帯迄）

鈴木誠の 一般質問＆結果

平成24年9月12月 平成25年3月議会

一般質問は議会のチェック機能に並び、現況改善や新たな政策を提案できる貴重な機会です。「批判だけ議員」にならないよう代替案を提案することに努めています。

◆東京都帰宅困難者対策条例（結果○）

4月より施行の同条例、稲城市民向けに咀嚼したわかりやすい広報を要望し「実施する」との回答。併せて、特に徒歩帰宅者等への道案内は近隣自治体と連携して取り組むべきと問い、市内の交通主要箇所（駅や交差点）に職員を配置すること、自治体連携は都と調整すると回答を得た。

◆市職員の参集について（結果○）

地域防災計画修正版の震度6弱以上で職員自動参集する件について訓練方法を問い、昨年5月・11月に実施、市内や近隣他市（自転車圏内）以外に居住の職員も必ず集合との回答。非勤務時の職員も自身と家族の無事を確保した上で参集し、災害時の初動態勢に当たるよう要望。

◆災害時非常食を防災教育に活用（結果◎）

期限切れが近い非常食の扱いを問うと、一部を市内の防災訓練で使用し、残りは新規購入時に業者に処分してもらうとの回答。大袋等で、市民配布は難しいが小中学校等での防災教育の一環に利用してはどうかと提案。消防・教育が連携し教育に活用するよう働きかけると回答。

◆避難所の「受付方法」統一について（結果○）

安否確認の基礎、また人数や構成に対し必要備品を振り分ける際に重要な避難所名簿。これらを一元管理できる統一フォーマットに整備をすべきと指摘、現在は避難所毎の様式になっているとの回答。二次避難所・病院等への移動も考え、関連施設や団体を交えての受付名簿統一を要望、受付名簿等について関係機関と調整し、的確な対応が出来るよう努めると回答を得た。

◆集合住宅に対する耐震診断助成（結果△）

木造住宅耐震診断助成の申請が少ない点を指摘、旧耐震基準の木造戸建て住宅に対し耐震診断・耐震改修の勧奨通知等を行うとの回答。対象を集合住宅にも広げるべきと提案し、都営・公社住宅については耐震診断、改修実績等について把握しているが、民間の集合住宅等にも旧耐震基準の住宅もあることから、今後は調査・研究し耐震改修促進に努めていくとの回答。

◆「受診内容照会制度」の見直し（結果△）

整骨院・接骨院で受診した3ヶ月後に個別調査照会が来るのでは、被施術者側の記憶と施術側の記録と齟齬が発生してしまう点、制度開始事前に施術者側に意見収集をしなかった点を指摘。併せて地域医療的資源である同院の災害時協力等の位置づけを問う。「災害医療救護体制」の構築における整骨院・接骨院の位置づけは今後の検討課題と回答、現在の受診内容照会制度による弊害を軽減するよう重ねて要望。

◆平尾・若葉台出張所の機能拡充（結果○）

稲城市出張所処務規則が過去9回改訂されたが、一度も現地住民の意見収集がなされていない点を指摘、また市の総合窓口として貸与品（AEDや放射能測定機）貸出業務もすべきと提案。「市政への提案の回収箱」設置、「窓口アンケート」実施など住民意見の収集方法を検討し、可能な業務は今後も採用すると回答。放射線測定器は、取り扱い説明が可能かを研究、AEDの貸し出しは使用者条件が必要だが、開庁時間外に貸出対応が可能か検討すると回答。

◆フェイスブック等SNSの活用促進（結果◎）

観光PRや行政情報発信、災害や緊急時の情報配信ツールとしても利用できる無料SNSを市に導入して有効活用すべきと提案。現時点では双方向性の特徴である不特定多数からの書き込みに懸念があるとの回答。まずは機能を制限し「発信」するところからでも取り組むべきと重ねて問うと、フェイスブックの利用に適した部署から導入を検討すると回答を得た。

◆市内公園の利用ルール見直し（結果◎）

市内公園のバーベキュー利用は、北緑地・若葉台の2公園において条件付きで利用可能だが、他の公園等も禁止としていないため、近隣住民の悩みの種となっていることを指摘し、マナー遵守のPRに努めるとの回答。きちんと警察に動いてもらえるように各公園毎に「禁止」も含めたルール設定することが必要であると重ねて提案し、迷惑行為の多発する公園など公園毎の独自ルールを設定し、場所によってはバーベキュー等の禁止も検討すると回答を得た。

◆中央図書館駐車場無料時間延長（結果◎）

中央図書館駐車場有料化で無料駐車時間が30分と近隣他市に比べても非常に短く、現実的に本の返却は出来ても新たに本を借りるには最低でも1時間以上必要ではないかと訴え、今後の市内駐車場整備と併せて整備・検討するとの回答を得た。**※多くの市民・議員が無料時間延長を訴え続けた結果、今年に入り『無料時間を1時間に延長する』との最終回答を得られました。**

◆平尾地区ケヤキ街路樹の再整備（結果○）

同街路樹関連の維持費が年間800万円程掛かっている点を指摘し、根上りでの歩道損傷や電線接触の危険が少ない中低木への植え替え等を今後の上平尾整備と併せて見直すよう提案。上平尾土地区画整理に合わせ植栽計画を見直していくと回答。

【その他】 ◆防災関連資機材の管理と、各地域に沿った資機材を導入するべき件◆可搬ポンプなどの機械類使用方法を含む自主防災組織運営マニュアルを作成すべき件◆防災無線の改善・応急給水所の設置◆消火栓・防火水槽を、施設（特養老、学校や公共施設、商業施設など）の直近に配置すべき件◆自動販売機へ災害時用簡易トイレを付帯導入する件◆防災井戸の水質管理・保全◆稲城市立病院への公共交通網（市バス・iバス）およびハンディキャブ送迎強化◆平尾地区における高齢者等の見守り体制構築◆医療費増加を防ぐための予防医療・健康増進施策◆市職員（消防団員や特別職含む）の健康管理◆開館1年を迎える稲城市健康プラザ&稲城市立病院健診・外来棟の状況◆レスパイトケア（市立病院への入院）について◆いじめに対し、稲城における児童見守りの仕組みづくり◆ふれんと平尾に移設予定の教育相談所の窓口機能を現在の東長沼相談所にも残すべき件◆リニューアルオープンする郷土資料室の展示工夫と古民家利用の運営◆おみやげ事業、フィルムコミッション等の稲城知名度向上施策◆坂浜～平尾間の天神通り工事状況の改善とバス停留所の整備◆街灯をLED街路灯&自動点滅式に切り替えるべき件◆稲城市学校体育館個人開放の見直し◆乳幼児や高齢者に脅威となるスズメバチの巣の駆除について、他　計九項目

《掲載問答の詳細、本紙掲載できなかった質問については議事録・HP等、または鈴木までご確認ください》

編集後記

■季節毎にお届けしている本紙・稲成起風ですが、半年もの期間を開けてしまいました。毎号お待ち頂いている方々におかれましては深くお詫び申し上げます。

■稲城青年会議所2013年度専務理事を仰せつかりました。3月20日（祝）に若葉台iプラザにて映画『うまれる』上映会を開催。多くの方にお越しいただき市内外を問わず明るい豊かな社会を実現するため稲城市民若手としても鋭意活動して参ります。

■いま日本を騒がせている領土領海問題。その本質を探るべく公務時間外を利用し、各地で開催される北方領土返還要求大会や竹島返還要求大会等に参加し鋭意勉強中です（全額自費）。国家とは、平和とは、日本を取り巻く現状は…これもまた日本国民の一青年として熟考中。国家間の歴史を認識をきちんと再検証することが必要そうです。

■ご存じの通り、稲城の観光力・知名度UPに日夜取り組んでおります。昨年は稲城膳の開発委員長をやらせていただきましたが、この継続は勿論、さらに今年は近所で大切に飼育されている羊の毛を使って何か面白いことが出来ないかと思案中です。市の知名度向上になる提案がありましたら是非御一報下さい。

≪9月～3月の活動日数報告≫

公務（本会議、委員会、審議会、公的視察等）、議員活動（市民相談、会派視察、研修、式典出席、資料作成、打ち合わせ等）、地域活動（自治会、消防団、青年会議所、神社奉賛会、領土・領海委員会等）。活動日数は7カ月212日中201日。休日11日間は各種スポーツ大会出場、研修旅行（伊勢神宮）、家族旅行など。

詳細は「いなぎ暮らし日記」にてご覧下さい！
1年365日、公私問わず全日公開しています。

inagi.info 検索
http://inagi.info

稲成会（鈴木誠後援会）では会員を随時募集しております。年会費無料。鈴木誠を応援してくださる方、「稲成起風」を毎号読みたい方、御連絡お待ちしています。
メール問い合わせ先：inari-kai@inagi.info